

整備の優先性

A. 自然再生の目標		B. 場所	No.	C. 整備内容		D. 課題の有無	E. 工事コスト(百万円)	F. 即効性	G. 用地	H. 実施における課題	I. 優先整備	J. 評価	ページ		
<p>現状の湿地環境の保全</p> <p>太郎右衛門自然再生地固有の多様な生き物を保全し、かつ、それらが生育・生息できる湿地環境を保全する。 近年確認されている希少種 67 種が生息可能な自然環境</p> <p>過去に確認された生物が住める環境の再生</p> <p>過去に確認された当該地区の固有かつ多様な生き物が住めるような環境の再生を目指すものとする。 かつて確認されたが、近年確認されていない希少種 6 種の再生</p>	上池	水確保	1	雨水の利用	池近傍に雨水集水路を設置し、導水する。						課題がなく、即効性が期待できる。	期	3-4		
			2	上池の掘削	水面及び湿地確保のため、上池の掘削を行う。						・モニタリングを通じて効果を確認しながら進める必要がある。 ・希少種(植物)の保護対策が必要になる。		期	3-5	
			3	高水時の本川からの導水	本川と上池の本川接続部を掘削し高水時に本川から旧流路への流入頻度を高める。						安価で効果が期待でき、課題もない。		期	3-6	
			4	池の連結	中池からの水供給と、生物の往来を考え、横堤部分をボックスバートなどで連結する。						・生態系への影響、中池の水位低下などが懸念される。		期		
			5	市野川の導水検討	市野川からの導水について、必要性の有無も含め検討を行う。						・市野川の水質改善を要する ・浄化施設エリアならびに上池のさらなる掘削が必要(ポンプ施設の設置)		期		
			6	水確保以外	ワンドの造成・エコトーン創出	水鳥の利用や湿生植物の生育場再生のため、水際を緩傾斜で掘削してエコトーン化する。					水確保メニューと平行して実施できる		期	3-7	
			7	旧モトクロス場の湿地化検討	旧モトクロス場について、ワンドまたは池として湿地化する検討を行う。						・用地取得を実施中である。		期		
			8	モニタリング	整備箇所及び保全箇所の形状、土壌、地下水位等の物理環境及び動植物の保全・再生状況										
			9	維持管理	保全地区における外来種対策、ゴミ処分等の維持管理について検討する。										
<p>荒川エコロジカル・ネットワーク</p> <p>荒川太郎右衛門自然再生地は周辺地域も含めたエコロジカル・ネットワークの核となる区域と位置付けるものとする。</p> <p>多様な水深の開放水面の拡大</p> <p>湿地環境を保全・再生するにあたっては、荒川本川水、雨水、湧水等の自然な水を用い、多様な水深の開放水面を拡大するものとする。 昭和 20 年代以上の開放水面面積を段階的に確保</p>	中池	水確保以外	10	雨水の利用	池近傍に雨水集水路を設置し、導水する。また、農業用水の利用も含め検討を行う。				・農業用水路の利用にあたっては、関係諸機関や利水権者との協議、調整を要する。		期				
			11	ワンドの造成	水鳥の休息・生息の場となる中ノ島を残し、ワンドの掘削を行う。					・用地取得を実施中である。		期			
			12	河畔林の保全(周辺地域の公有地化と保全管理)	河畔林の保全及び自然確保のため、民有地を公有地化し、適切な管理を行う。					・用地取得を実施中である。	管理のみ			3-8	
			13	旧モトクロス場の湿地化検討	旧モトクロス場について、ワンドまたは池として湿地化する検討を行う。					・用地取得を実施中である。		期			
			14	モニタリング	整備箇所及び保全箇所の形状、土壌、地下水位等の物理環境及び動植物の保全・再生状況										
			15	維持管理	保全地区における外来種対策、ゴミ処分等の維持管理について検討する。										
<p>蛇行形状の保全</p> <p>約 70 年前の蛇行形状が今もなお変わらず残る、歴史的に貴重な荒川旧流路を保全し、後世に伝えるものとする。</p> <p>治水面からもプラス</p> <p>将来にわたり治水の面からもプラスとなるような自然再生事業とする。</p>	下池	水確保	16	雨水の利用(周辺の水又は農業用水)	池近傍に雨水集水路を設置し、導水する。また、農業用水の利用も含め検討を行う。				・農業用水路の利用にあたっては、関係諸機関や利水権者との協議、調整を要する。		期				
			17	池の連結	中池からの水供給と、生物の往来を考え、横堤部分をボックスバートなどで連結する。					・生態系への影響、中池の水位低下などが懸念される。		期			
			18	(下池下流部の高上げ)(新提案)	(下池下流部の水路床を高上げし、水位の上昇を図る)					()	()	()	()	3-9	
			19	ワンドの造成	ワンド周辺にハンノキ発芽適地を確保するための水路網などの整備を行う。					・用地取得を実施中である。		期	3-10		
			20	ハンノキ林の保全・再生	現存するハンノキ林を含む周辺地区を公有化し、適切な保全・管理を行う。					・用地取得を実施中である。		期	3-11		
			21	ハンノキ発芽適地の創出検討	人為的に発芽、生育に適する湿性地进行に創出する。					・用地取得を実施中である。		期	3-12		
全体	その他	22	モニタリング	整備箇所及び保全箇所の形状、土壌、地下水位等の物理環境及び動植物の保全・再生状況											
		23	維持管理	保全地区における外来種対策、ゴミ処分等の維持管理について検討する。											
		24	治水面での施策	調整池計画との整合、整備により生じた土砂の有効活用などを実施していく。											
		25	環境学習と安全な利用のための事業整備	環境学習、利用者の受け入れ等に対応した事業を実施する。											

太郎右衛門
自然再生地の
望ましい姿

70 年前の荒川旧流路において太郎右衛門自然再生地固有の豊かな生態系を育む湿地環境

期で着手する内容

- ・課題の有無 : 特になし : 小さい : 大きい
- ・工事コスト : 小: 50 百万以下 : 中: 50 百万 ~ 200 百万 : 大: 200 百万以上
- ・自然再生の効果・即効性 : () 書きは概算費用・百万円
- ・実施可能な用地 : 大きい : 普通 : 小さい
- ・実施可能な用地 : 官地または用地取得済 : 用地取得を実施中

期: 1-3 年 期: 3-5 年 期: それ以降